第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	多職種合同カンファレンスを通じた職種イメージの変化
日　　時	平成 25 年 3 月 31 日　10：20～10：30
会　　場	第８会議室
座　　長	新田クリニック　新田國夫先生
演　　者	あおぞら診療所　片山 史絵先生
企画趣旨	【目的】 多職種連携を推進するためには他職種の立場や役割を理解することが重要である。当院では昨年度より多職種合同カンファレンス(以下、多職種 CC と略)を開催し、多職種 CC は“自分の職種の役割、他職種の視点や専門性”を知る場として有効であると考える。本研究では、多職種 CC を通して他職種に抱くイメージがどのように変化したのかを明らかにすることを目的とした。 【方法】 第 4 回多職種 CC（平成 24 年 2 月）に参加した医療福祉従事者 103 名を対象に、「多職種 CC に初めて参加する前と今現在で、職種イメージや職種の役割に対する捉え方が特に変わった／新たに知ったことの多かった職種」を 3 つ選び、変化について回答を求めた(質問紙調査：回収数 90 名／回収率 89.1%)。 【結果】 多職種 CC 参加前後の各職種のイメージは、「仕事内容」「訪問の有無」「在宅への関心」「連携や協働の可能性」等で捉えられていた。多職種 CC 前に連携実績の少なかった職種では、多職種 CC 後イメージは「職種の専門性や役割、重要性の認識」「困っていることの把握」に関する内容が多く挙げられた。職種別では、医師は「印象」や「連携や協働の可能性」、看護師は「病棟看護師の在宅への関心」、薬剤師・歯科・PT／OT は「仕事内容」や「在宅への関心」、SW は「仕事内容」、CM は多職種 CC 後の「重要性の認識」、「CM が困っていることの把握」に関する意見が特徴的であった（表１）。 【考察】 他職種との情報共有や議論、交流を繰り返し行うことで、参加者が他職種に“生活の視点を持ち”在宅患者に関わる共通点を見出すと同時に、各職種の“患者の生活に密着する”仕事内容と専門性、“困っていることの把握”を理解することに繋がったことが伺えた。他職種に対する先入観の再考やイメージを広げることで他職種の役割や専門性への理解、連携にあたっての配慮を高めると考える。今後は、他職種に対する「重要性を認識した／連携や協働が可能である」等の変化が仕事上の連携にどう影響をしたのかを検討する必要があるといえる。

表1．各職種の多職種合同カンファレンス前後のイメージ変化の記述例

職種	カンファレンス前	カンファレンス後
医師	こわい、かたい、敷居が高い	連携・協働できる存在、在宅医療、多職種連携の中心
	「怖い、忙しい、在宅や介護への理解不足」	「在宅医療に熱意を持って取り組んでいるDrがいる」
看護師	病棟看護師は在宅に無関心	病棟看護師も在宅に理解、関心がある、話しやすい
	「現場（病棟）のことだけに集中している」	「在宅を見据えた指導への気持ちがある」
薬剤師	薬の取り扱い、薬局での調剤	在宅での服薬指導、他職種への薬剤に関する知識提言
	「カウンターの向こうで調剤する人」	「在宅での服薬指導や患者への関わり」
歯科	義歯やう歯の治療、在宅とは疎遠な印象	訪問歯科診療や口腔ケアの重要性、誤嚥性肺炎の予防
	「義歯や虫歯の治療をする人」	「歯だけでなく食にまで関係している」
PT／OT	リハビリ室で運動訓練をする	利用者の生活機能を支える重要な役割
	「筋力upし、関節の動きを良くしてくれる」	「自宅の改修の指導もする」「QOLに影響する」
ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ（SW）	退院時の調整、仕事内容が分からない	退院後も関わりを持つ、多職種の連携を繋げる役割
	「病院（転院先）の紹介」「退院時の指導」	「退院後も医師との間の窓口になる」
ｹｱﾏﾈｼﾞｬｰ（CM）	サービスの手配、業務内容が多岐にわたる	在宅の中心、忙しい、しっかり考えている
	「サービスの調整のみ行っている」	「在宅のハブ」、「きめこまやかなマネジメント」